

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	横須賀市立池上中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	0	12	23
生徒数	140	151	124	0	415	

研究の概要

1. 研究主題

「学力向上 ともに学び合える学習集団育成のための学習指導の研究」
(グループ学習の指導法・教材の研究)

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年の必修教科全て
(全学年・全教師の実践を数多くすることで学力向上を目指そうと考えた)

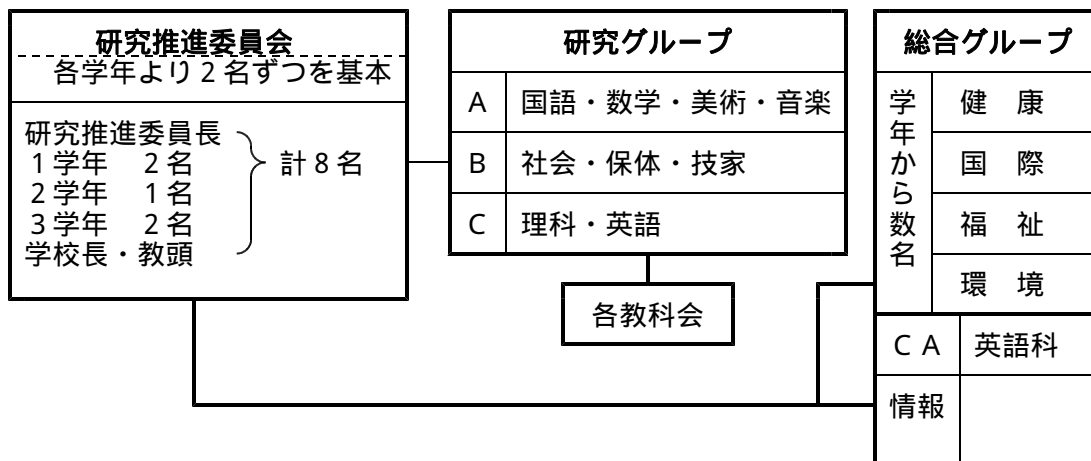
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「学力向上 ともに学び合える学習集団育成のための学習指導の研究」(グループ学習の指導法・教材の研究)</p> <p>仮説 共に考え学び合える学習集団育成のための学習指導の研究を行えば池上中学校の求める学力は向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 研修会実施によるテーマの検討と修正。 研究授業の実施によるテーマの検討と修正。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「学力向上 共に学び合える学習集団育成のための学習指導の研究」(グループ学習の指導法・教材の研究)</p> <p>仮説 共に考え学び合える学習集団育成のための学習指導の研究を行えば池上中学校の求める学力は向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 グループ活用・基礎基本の向上に向けた教材の開発。 研究授業(全教師が行う)実施によるテーマの検証。</p> <p>追加 ふさわしいグループ規模・構成についての研究</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「学力向上 共に学び合える学習集団育成のための学習指導の研究」(グループ学習の指導法・教材の研究)</p> <p>仮説 共に考え学び合える学習集団育成のための学習指導の研究を行えば池上中学校の求める学力は向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 グループからグループ間への学習進化の研究。 研究授業(全教師が行う)実施によるテーマの検証。</p> <p>追加 「学び合える集団とは」についての研究。 <学級集団における学び合いとは何かの共通理解が不足していた></p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) グループ学習(学び合える学習集団)に必要な諸条件についての考察

学習規律 <作業従事時間を確保する>

- ア 話を聞く時(教師も生徒も同じ)・話し合う時・作業をする時の切り替え。
- イ 他者の話を肯定的な姿勢で聞く、助け合える・考え合える人間関係。
- ウ 机を使った授業なら机をしっかりとつける。
- エ グループで責任を持たせる。責任の範囲は教師の判断が必要。
- オ 授業ごとのルール of 徹底。
- カ 校内の学習規律の徹底。

教師の働きかけと留意事項

単なる「お遊び」の時間となり、楽しかった!で終わらないためにも教師の働きかけが非常に大切となる。まずは個が考える、次に思考の形態がグループ全体に広がっていくような流れに乗せ、やはり最後は個が学習内容をしっかりと自己のものとして獲得しなければならない。そのためには、それなりの教材研究・集団の状況把握・個の状況把握が大切である。

ア 話を聞く時(教師も生徒も同じ)・話し合う時・作業をする時の切り替え。

学級指導と同じ姿勢で行う。

イ 他者の話を肯定的な姿勢で聞く、助け合える・考え合える人間関係

学級指導と同じ姿勢で行う。

ウ 生活のルール・学習のルールを学校全体で指導する。*妥協しない!

エ 適切で明確な学習課題の提示・・・何をすべきかをはっきりとさせる。
しっかりと解りやすく説明する(提示の工夫)
教師自身が授業準備をしっかりと行う。

オ 低学力の生徒やグループ学習の参加が難しい生徒の指導に計画性を持つ。
・・・この辺りまで理解させたい、ここで生かしてあげたい・・・

カ 刻一刻変化するグループの活動状況をつかみ取る「動体視力」とグループの流れに + 方向に働く「ストライク」のアドバイスに努力する。
(つぶやきや発言・アイデアをタイミングを良く取り上げるなど・・・)

キ 学習リーダーの育成・・・わかる子が積極的にグループを引っ張る意図的な声がけを大切にする。

ク グループの構成に無理がないか注意する。

(2) 学力向上に関する中間のまとめ
* 意識調査のデータは別紙に記載

学ぼうとする意欲の向上

アンケートの数値にも明らかなように勉強が好きであると答える生徒が全国平均と昨年度の池中平均を大幅に上回った。また、「勉強すれば良い成績はとれる」や「自分の力で答えを見つけられるよう勉強したい」、「勉強すれば先生がほめてくれる」など他にも学ぶ意欲を司る重要なポイントが上昇している。授業の全てがグループ学習ではないが仲間との学習により多くの生徒が学ぶことの楽しさや喜び、そして何より解くことを実感していると判断している。また、グループを効果的に活用するため教師が単元プリントなどを活用し見通しのある綿密な指導計画を立案していることも学ぼうとする意欲を向上させる原因になっていると考えられる。

考える力の向上（学習課題の定着のために）

この項目について校内では「どうやって測定するのか」曖昧で困難であるとの論議があり未だ測定方法は明らかになっていない。しかしながら、教師の体感的なとらえでは生徒は明らかに「考えること」に前向きになっている。やはり、一人では困難な思考を巡らせる操作も仲間との意見交換でプラスの方向に進んでいると考えられる。グループ各個人のつぶやきが一つの思考を形成していく過程を多くの教師が発見している。意見の交換が円滑になり考えるためのヒントが数多くグループ内に溢れる瞬間を教師が発見している。仲間に教えるために自分自身の知識を再考する場面や次の自分の課題を発見する場面を教師が発見している。ある部分刹那的な感動かもしれないが、グループが考えを巡らせ学習課題に接近する場面に遭遇することは教師の喜びでもある。また、アンケート結果、「数学：論理的に考えられるよう数学を勉強したい」、「理科：疑問解決や予想を確かめる力つくように理科を勉強したい」のポイントが全国平均と昨年度池中平均を上回っており、生徒は「考える力を」育むための学習を好んでいると判断している。

基礎基本の定着

学力診断テストのようなものではなく、同じ集団に対する継続的な意識調査を重要視した。その結果、「授業がどの程度わかりますか」について、2年生は1年次に比べ微増ではあるが上昇、3年生も2年次に比べやはり微増ではあるが上昇している。学習内容が難しくなる高学年に従って数値が低下するものと考えていたが、この上昇傾向は授業に対する取り組み成果と考えられる。

社会と関わる力の向上

人間は一人では生きていくことができない「社会的動物」の最たる存在である。私たちは家族・近隣・企業の一部署・スポーツの試合・友人づきあいなど多くの場面で少人数により関係を深めていく。学習も同じように深みを持たせるためには適度な集団構成に変化をさせるべきと考える。客観的な評価の難しい項目ではあるが、学習集団を適度な規模に縮小したことにより生徒はより仲間との関わりを主体的に行えるようになった。顔の見える仲間とは「何かをしゃべらなければ」ならない、普段黙っている生徒でも自分が関わろうと思いを巡らせなければならぬ。仲間への教え合いも顔の見える仲間とならば成立する。今後も社会に主体的に関わる力を育む努力を継続させたい。

2. 今後の課題

学習課題の精選と指導・評価計画の充実
グループを用いた学習は学習活動を保障するため複数の時間にまたがること多く

他の学習形態よりも時間のかかることが多い。また、何を目的としてグループで学習活動をさせているかが曖昧になってくる場合も見受けられる。年間を見通した指導・評価の計画を常に意識する取り組みを継続して進める。

グループ学習の方法の確立

この2年間で教師個々が培ってきた方法を学校として共有し、学校全体でグループ学習の基本的な方法を確立する取り組みを進める。

【例】

- ア 課題設定がグループ学習に適切かどうかについて
- イ 授業のルールは守られているかについて
- ウ 生徒個々・グループを見取る工夫について
- エ 集団構成の工夫について
- オ 柔軟な教師の姿勢について
- カ 学習に適した雰囲気作りについて

評価について

グループだからこそ教師には余裕が生まれる。どの様に個の学びを見取っていくのか、特に授業における個々の成長を把握するための研究を進める。

学習の深化発展

グループ学習をさらに深め、生徒一人一人の考える力・社会との関わり合い・基礎基本の定着を保障する。そのための取り組みとして、グループ学習の幅を複数の時間にまたがらせ生徒の活動を広げ深める工夫を研究する。

学び合える学習集団に視点を戻そう

グループ学習を軸に研究を進めているが、テーマの中心にある「学び合える学習集団」に対しての研究に深まりがないままの2年間であった。次年度はその部分に焦点を合わせて研修を進めたい。

できる子・できない子、早い子・遅い子、ふつうの子がいてこそその教室であることを忘れてはならない。数多くの気づき・つぶやき・発言があふれる授業作りで学力の向上を目指したい。

学力等把握のための学校としての取組

月一テストの実施	定期試験のない月に5教科を基本とする小テストを実施。(6時間目：HRの時間)。学習課題の定着度を測り評価と指導の一体化に活用。
生徒意識調査	全学年・全学級で2月最終週と10月第1週の2回実施。学習や学校生活に対する意欲を中心に調査。横須賀市ネットワーク「学びの泉」のアンケートソフトを活用し「情報」の授業で実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究発表会</p> <p>フロンティアスクール中間発表 平成15年11月6日(木)池上中学校会場</p> <p>フロンティアスクール最終発表 平成16年11月2日(木)池上中学校会場</p> <p>授業研究・・・「5月から11月の間(8月除く)各月2回」の公開</p> <p>ホームページによる情報発信</p> <p>「学力向上フロンティア」のページを設けて情報を発信。 http://www.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/ 中学校 池上中学校</p> <p>< その他の内容 ></p> <p>(総合案内)(2学期制)(2003年度の教育)(行事予定)(講話・学年通信)</p> <p>(部活動)(生徒会)(PTA)(かべ文庫池上の昔)</p>
--

